

尾道市立向東中学校 第1学年（道徳）学習指導案

指導者 尾道市立向東中学校

教諭 子川 春子

1. 教材名：ぼくらの村の未来
2. 主題名：自然と共生するには
3. 内容項目：D－（20）自然愛護
4. 日時：令和7年11月7日（金）3校時
5. 学級：1年2組（27人）
6. 場所：1年2組教室

主題観

本主題は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編 内容項目D－（20）自然愛護「自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。」に基づいて設定したものである。

自然愛護とは、単に自然を保護し愛するというのではない。自然の美しさや神秘さを感じるとともに、自然は人間の力が及ばない存在であることを認識することで、人間は自然の中で生かされていることを自覚し、自然に対して謙虚に向き合うことの大切さを理解することができる。その理解が、生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の心を生み出し、自然を大切にすることの意義を実感することができ、自然の生命を感じ取り、自然との心のつながりを見出してともに生きようとする。

独善的になりやすい人間の心を見つめ直し、自然をむやみに破壊せず、可能な限り維持、保全しようとする意識を高め、自分のできる範囲で環境を保全する活動に貢献しようとする態度を育むことができると考え、本主題を設定した。

生徒観

本学級の生徒を対象に行った道徳科の学習、ねらいや指導内容に関するアンケート結果は以下の通りである。（R7.7月実施）

質問内容	肯定的回答
自然が好きだ。	92.3%
自然環境が損なわれないよう、意識的に行動している。	63.9%
道徳科の授業では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている。	96.4%

本学級の生徒は、「自然が好きだ」という項目に対して、肯定的回答が92.3%ではあるが、「自然環境が損なわれないよう、意識的に行動している。」という項目に対して、肯定的回答は63.9%となっている。

総合的な学習の時間で取り組んでいる「持続可能な開発目標（SDGs）の学習」を通して、自然に対して愛着をもち、「エコバッグを使用する」「クーラーの温度を下げ過ぎない」など自然保護への知識をもっている一方で、自分自身が自然を保護していこうとする気持ちが十分に育っていなかったり、そもそも自然とともに生きているという考えをもっていなかったりしているのが現状である。

また、本学級の生徒の96.4%は、対話を通して、道徳的価値について考えを広げることができていると捉えており、対話を学習活動に位置付けることで、よりねらいに迫ることが期待できる。

指導観

本教材は、新道路建設に対して、賛成派と反対派それぞれの立場の考えや思いに触れながら自然と共生するとはどういうことかを考えることができる内容である。村人たちは独善的に考えや思いを語っているが、その話合いの中でも自然から受けている恩恵や、自然と心はつながっている場面が垣間見え、自然に囲まれて生活している生徒自身が自分との関わりで考えを深めることができる教材である。

導入では、「身近に自然（海）があつてよかった」と思うことについて自分のことを想起させ、総合的

な学習の時間で取り組んでいる「持続可能な開発目標（SDGs）の学習」との関連から、本時のテーマである「自然とともに生きるとはどういうことか。」について課題意識をもたせる。

展開では、動画視聴から生徒それぞれが考えたことや疑問に思ったことを共有したり、深めたいワードを活用して生徒同士で対話したりすることで、村人たちには多面的・多角的な考えがあることに気付かせるとともに、「かけがえのない自然」について着目させ、自然から受けている恩恵や、自然と心がつながっているということに気付かせながら、本時のテーマに迫る。

終末では、身近な自然をもう一度想起させることで、自分との関わりで考えられるようにし、自分のできる範囲で環境を保全する活動に貢献しようとする道徳的実践意欲の向上を図る。

本時の学習

- (1) ねらい：村人たちの話合いの中から「かけがえのない自然」に着目し、自然とともに生きるとはどういうことかについて考えることを通して、自然から受けている恩恵や、自然との心のつながりに気づき、自分のできる範囲で環境を保全する活動に貢献しようとする道徳的実践意欲を育てる。
- (2) 評価：自然から受けている恩恵や自然との心のつながりに気づき、自然とともに生きている私たちに大切な考え方について、自分との関わりで考えている。
- (3) 学習展開

	学習活動	主な発問・予想される生徒の反応 ○：発問 ◎：中心発問 補：補助発問 問：問い返し	指導上の留意点
導入 5分	1. 道徳的価値について問題意識をもつ。	<p>○「身近に自然（海）があつてよかった」と思ったことはあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心が癒やされる。 ・美味しい魚が食べられる。 ・観光資源になる。 <p>○向島の海がなくなったら困ることはどんなことか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が減る。 ・美しい海が見られなくなって寂しい。 <p>(アンケート結果) 自然環境が損なわれないよう、意識的に行動している 63.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と自分との関わりや自然の大切さについて、自分との関わりで想起させる。 ・総合的な学習の時間の学びを想起させるとともに、アンケート結果を提示し、環境保全に向けて、行動することの難しさについて考えさせる。
本時のテーマ：自然とともに生きるとはどういうことか。			
展開 35分	2. 教材を活用して考える。	<p>○動画を視聴して、気になったことや疑問に思ったことは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・珍しいキノコのヒスイオオタケは無くしたらだめなのではないか。 ・「かけがえのない自然」というのが気になった。 ・賛成派の人の「温泉」も自然ではないか。 ・賛成派の人たちは自分の都合しか考えていない。 ・「ただの山」ではなく、生活の一部を崩されたくないということが気になる。 ・どちらも共通して「自然は守りたくない」とは思っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の視聴の前に、写真等を使って内容の概要を整理し、視聴後に話し合う視点を提示することで、短時間で内容を捉えさせ、生徒が自分の考えをもてるようにする。

		<p>生徒の気になったことや疑問に思ったことを生徒同士で対話する。(★生徒の問い)</p> <p>★便利さを求めるのは分かるけど、珍しいヒスイオオタケは無くしても良いのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒスイオオタケが観光資源にもなるから、観光客を増やすためにも無くさない方がいいよね。 ・温泉も自然豊かだからこそ湧いているんじゃないかな。自然を守るの方がメリットがありそうよね。 <p>★他にメリットはあるか。逆にデメリットはないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かだと、農作物などがたくさん取れるし、空気もきれいだし、便利ではないかもしれないけれどその分、身体に良い生活が送れそう。 ・若いうちは良いかもしれないけれど、高齢者には不便なことが増えるのではないだろうか。 <p>★例えばどんなことが不便なんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若いお母さんも言っているけど、病院が遠かったり車が運転できないと買い物に気軽に行けなかったりするよね。 <p>★でもかけがえのない自然を壊してまで優先すべきことなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村人みんなが協力して生活すれば解決できる問題だから、自然を守るの方が大事だと思う。 ・自然を守っている村人の生活も大切だから、上手く自然を守りつつ今よりも生活がしやすくなる方法を考えていく必要があるよね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になったことや疑問に思ったこと理由を話し合わせることで、「賛成・反対」の意見の対立につながる要因等を考えられるようにする。 ・生徒同士による対話で、自然とともに生きることについて、生活の利便性や地域の在り方、生命の連続性等の視点で多面的・多角的に考えられるように、向東の対話の重点項目「多面的・多角的に考えよう」を意識させたり、「深めたいワード④メリット、デメリット、⑥立場を変えたら」を活用させたりする。
		<p>補「かけがえのない自然」とはどういうことか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失われたら戻らないものだから、守っていかねばならないということ。 ・人間の身勝手に壊してはいけない自然であるということ。 <p>◎私たちが自然とともに生活する上で心にもっておきたい考えは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の存在が私たちの生活を豊かにしていることを自覚すること。 ・自然の恵みが「当たり前ではない」と意識すること。 ・自分たちの便利さのためだけに自然を壊すのではなく、次の世代が同じように自然と暮らせるように守っていく責任感をもつこと。 ・人間は支配者ではなく、自然の一部であり「ともに生きる」存在であるということ。 ・便利さを求めることが、自然破壊の原因になる可能性があることを自覚し、むやみに自然を壊さないためにはどうすればよいのか考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の対話の様子を見ながら、必要に応じて教師は補助発問を行う。 ・ホワイトボードの活用(①共通するキーワードを□で囲む。)を提示し、意見の共通点や相違点を視覚的に分かるようにすることで、その後の対話の活性化につなげる。

終末 10分	3. よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	○今日の授業で考えたことを基に、あなたはこれから身近な自然とともにどのように生きていきたいか。	評価の視点 自然から受けている恩恵や自然とのつながりに気づき、自然とともに生きている私たちに大切な考え方について、自分との関わりで考えている。(ノート・行動観察)
振り返り (例) ・ゴミを持ち帰るなど、小さな実践を続け、日常の中で自然を大切にできる行動を習慣にしたい。 ・自分を癒やしてくれている海は無くなったら困るから、未来に残していくために清掃ボランティア活動などに参加する。 ・自然に恩恵をもらっていることに気付いたから、自分も感謝しながらこれからも自然との関わりを大切にしたい。			

(4) 板書計画

○今日の授業で考えたことを基に、あなたはこれから身近な自然とともにどのように生きていきたいか。	<table border="1"> <tr> <td>生徒の意見</td> <td>生徒の意見</td> </tr> <tr> <td>生徒の意見</td> <td>生徒の意見</td> </tr> <tr> <td>生徒の意見</td> <td>生徒の意見</td> </tr> </table>	生徒の意見	生徒の意見	生徒の意見	生徒の意見	生徒の意見	生徒の意見	◎ 私たちが自然とともに生活する上で心にもっておきたい考えは何だろう。	僕らの村の未来 本時のテーマ 自然とともに生きるとはどういうことか。 ○ 気になったことはあるか。 ★ 便利さを求めるのは分かるけど、珍しいヒスイオオタケは無くしても良いのか。 ★ 森を守るメリットはあるが、逆にデメリットはないか。 ★ でもかけがえのない自然を壊してまで優先すべきことなのだろうか。
生徒の意見	生徒の意見								
生徒の意見	生徒の意見								
生徒の意見	生徒の意見								